

# BRIDGEPLUS

関東労災病院医療連携情報(令和4年7月号)

## Information

□ クローズアップ診療 (産婦人科)

□ 診療科紹介 (総合内科)

□ 診療科紹介 (救急集中治療科)

□ 診療科紹介 (感染症内科)

□ 診療科紹介 (形成外科)

### クローズアップ診療 (産婦人科)

産婦人科に新たな婦人科腫瘍専門医の部長が赴任し、さらに充実したがん診療を行える体制になりました。  
今回は、診療機能のさらなる充実に向けて取り組む産婦人科をクローズアップしました。

#### 松本 陽子 (まつもと ようこ) 第二産婦人科部長



2000年 東京大学医学部卒業  
2009年 埼玉県立がんセンター 医長  
2017年 東京大学医学部附属病院産婦人科 講師  
2022年～ 関東労災病院 産婦人科 第二部長

日本産婦人科学会 専門医・指導医  
日本婦人科腫瘍学会 専門医・指導医  
日本がん治療認定機構 がん治療認定医

産婦人科では、2022年度より新たに婦人科腫瘍専門医が1名増員となり、婦人科腫瘍専門医計2名を含む常勤医10名(うち産婦人科専門医5名)で、さらに充実したがん診療を行える体制になっています。治療が困難な進行症例も多いですが、全身の状態を整えながらベストな集学的治療を心がけています。また、昨今の低侵襲手術のニーズを考慮し、早期子宮体がんに対する腹腔鏡手術をはじめ、良性疾患も可能な限り鏡視下手術を導入しています。

周産期分野では、今年度より産科麻酔専門医による無痛分娩(当院では麻酔分娩と呼んでいます)を開始しました。希望者全てが対象ではありませんが、患者さんに安心して快適な医療を提供できるよう皆で努力しています。治療後は病状が落ち着きましたら紹介元など地域の医療機関に逆紹介いたしますが、連携をとりながら地域の先生方と一緒に対応していきたいと思っております。

本誌へのご意見、ご要望がございましたら、右記mailへお寄せ願います。地域医療連携の充実に役立てていけるよう努めてまいります。

発行人: 地域医療連携室  
☎044-411-3131  
mail: renkei4@kantoh.johas.go.jp

## 診療科紹介（総合内科）

今回は総合内科の役割についてクローズアップしました。

診療科の選定に迷う患者さんは、総合内科へご紹介ください  
(総合内科 部長 丹羽 一貴)



総合内科は、外来・入院・教育を3本の柱として2019年に開設されました。外来診療では、専門診療科が担当する疾患・症状の範囲から外れてしまう患者さんに対して、診断を検討し、専門治療への道筋をつける役割を担っております。入院診療においても、同様に、診断困難例を中心に担当いたします。また、初期研修医、内科専攻医に全人的な医療を指導することも診療科の役割と考えております。

主に急性熱性疾患(特定の臓器由来の症候がない、不明熱)、食欲不振・体重減少など、臓器別診療科への紹介が困難な患者さんの診療を担当しております。入院診療においては、重症の複雑性尿路感染症(腎盂腎炎)、皮膚軟部組織感染症、アナフィラキシーについても、専門診療科と共に、担当しております。また、2020年からはCOVID-19診療も、主に当科で担当しております。

当院は中原区における中核病院、地域医療支援病院であり、その責務を果たすべく、地域医療機関からの紹介患者さんの受け入れに力をいれております。診断・治療に困る患者さんがいらっしゃれば、当科へご紹介ください。

### 【主な対象疾患】

- ・ 急性熱性疾患/不明熱、難治例
- ・ 食欲不振/体重減少/体重増加
- ・ 診断困難症例
- ・ COVID-19



- ※ 明らかに臓器別の症候（例: 胸が痛い、呼吸が苦しい、咳嗽、腹痛、皮膚が赤いなど）がある場合は、臓器別診療科へご相談ください
- ※ COVID-19後遺症は、症状にあわせて、臓器別診療科へご相談ください
- ※ 海外帰国者の体調不良、輸入感染症疑いなどは、感染症内科へご相談ください
- ※ バイタルサインが悪い(緊急性あり)場合、診療科の選定に迷う場合は、診療科選定、受診方法なども含めて、地域連携室へご相談ください

## 診療科紹介 (救急集中治療科)

地域中核病院として救急患者を受け入れます  
(救急集中治療科 部長 加地 正人)



当院は中原区における地域医療支援病院であり、その責務を果たすべく地域における救急患者や地域医療機関からの紹介患者の受け入れを行っています。入院が必要である二次救急を中心に救急患者を応需しています。各診療科において専門的な見地から患者の診療が行われておりますが、単科では診断や治療が困難な症例が存在します。また外傷患者においても内因性疾患が原因であったり合併したりすることが多く認められます。救急科では紹介診療科が選定できないような症例や複数の診療科が関与しなくてはならない患者の診療も担当しています。初期診療後には最も適切な治療が受けられるように、当該専門科に診療を依頼しております。集中治療室(ICU・HCU)においては、各科が入院管理している重症患者や術後患者に対して診療支援も行っています。重症患者が最も適切な治療が受けられるように集中治療室を管理し各科が最大限の力を発揮できるようにサポートしています。

## 診療科紹介 (感染症内科)

性感染症疑い、海外帰りの体調不良の患者様は当院感染症内科にご紹介おねがいたします

(感染症内科 部長 本郷 偉元)

感染症内科はスタッフ2名体制で診療を行っております。少数部隊です。外来では、HIVを含む性感染症、梅毒反応陽性、肺以外の結核(肺外結核)、海外旅行帰りの発熱・体調不良などの方を中心に診療させていただいております。これらの患者さんがおられましたら、地域の先生方におかれましては是非当科外来へご紹介いただけますと幸いです。

入院患者さんに関しましては、ベッドは持たず、院内の各診療科からマネジメント困難な感染症患者さんのコンサルトをいただき、それらの患者さんを中心に診させていただいております。日本やアメリカでは感染症内科はベッドを持たないことが一般的であり、当院もそのようになっております。

これらの他に、当院で血液培養が陽性になった全ての患者さんのカルテをチェックし、抗菌薬が適正に使用されているかもみさせていただきます。今後とも地域の先生方からのご指導、ご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。



けが、傷あと、皮膚腫瘍やあざなどは形成外科へご紹介ください  
(形成外科 部長 荻野 浩希)



形成外科は、頭皮から足趾までの身体の広い範囲の皮膚軟部組織に対する外傷、腫瘍、再建、先天異常、眼瞼手術、レーザーなどの治療を行っております。2007年からレーザー治療機器を導入し、しみ、雀斑、ADMなどの色素性病変が治療対象になり、2016年にQ-アレキサンドライトレーザーに更新され、異所性蒙古斑、太田母斑、外傷性刺青などの保険治療も可能になりました。

2022年春にフラクショナルCO2レーザーが導入され光老化やニキビ跡・瘢痕に対する治療もできるようになりました。

スタッフは形成外科医師4名（専門医2名）で治療しています。

初診外来は平日午前中だけですが、顔面外傷、四肢軟部組織外傷、熱傷の救急治療にも対応しております。緊急の処置・入院が必要な患者さんを紹介される場合は、電話連絡をお願いします。

形成外科で行う主な治療は下記の通りです。

1. 顔面外傷(顔面骨骨折・軟部組織損傷)、四肢の軟部組織外傷、熱傷(やけど)の治療
2. 皮膚・軟部組織の良性・悪性腫瘍に対する外科療法
3. 腫瘍切除後、外傷後の再建治療
4. 顔面、手足などの外表先天異常に対する外科療法
5. 瘢痕拘縮、瘢痕(肥厚性瘢痕・ケロイド)などに対する整容的治療
6. 褥瘡、皮膚潰瘍、皮膚欠損創の治療
7. 眼瞼下垂・眼瞼内反・眼瞼外反などの眼瞼手術
8. 異所性蒙古斑、太田母斑、外傷性刺青に対するレーザー治療(保険)
9. メラニン沈着性疾患(しみ・そばかす)、黒子、刺青、ニキビ跡・瘢痕などに対するレーザー治療(自費)



炭酸ガスレーザー



肥厚性瘢痕



ケロイド



色素性母斑



悪性黒色腫